

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600048		
法人名	(有)あすとぴあ		
事業所名	グループホーム望喜家		
所在地	臼杵市大字江無田1100番地		
自己評価作成日	平成28年3月31日	評価結果市町村受理日	平成27年度9月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成28年 4月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は【利用者本位とチームワーク】ということをもっとしている。利用者本位については、昼食は利用者の方に食べたいものをお聞きし、利用者の方と一緒に買い物に行き、帰ったのちに調理をする。夕食時に晩酌をされるかどうか聞き、晩酌される方にはビールや酎ハイをお出しする。毎日、ドライブに出かけたり、買い物や外食を施設内だけの生活にならないようにしている。また、ご家族や知人の方に髪はどこでカットしていたか尋ね、そのお店にお連れする。もう一つのモットーとして、【地域の方に福祉を届ける】というテーマを持ち、認知症の公開講座を開催したり、認知症サポーター養成講座の講師を務めている。また、認知症の人の家族の会にも参加し、何か力になりたいと思っている。地区の方から「私の地区に望喜家があってよかった」と思ってもらえるように職員全員で努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域とのお付き合いとして、買い物や理美容院の外出・施設周辺の清掃作業時に触れ合いをもっている。また年に3回、住民向けの「認知症サポートデスク」の研修会を開催している。
- ・日頃から利用者の暮らしぶりを家族にリアルタイムでLINEを活用し画像を送っており、家族の安心感に繋がっている。また、運営に対して気軽に意見が出せるように、定期的に家族会を開催し意見交換を行っている。
- ・災害想定をした避難訓練を行い、また消防署よりAED・救急の指導を受け、実践力を身に付けている。防災士の資格を持つ職員もおり、備蓄も準備している。
- ・食事の献立は利用者のリクエストが出やすいように、広告を利用する等の工夫をし献立を決め、職員と一緒に手作りされ、準備・片付け・買い出しに行くなどの出番があり、食事が楽しみになるよう工夫がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に職員全員で、施設の理念を声を出して読む。そのことにより、全員が理念に沿ったケアの提供を心掛けている。	理念を、朝礼時に唱和して振り返りの場となっている。また、ケア会議の際は、理念を基本とした会議を開き職員間で話し合いを持ち、職員教育の一環としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の方の行きつけの美容室や理容室にお連れし、入所前からのつながりを確保している。また、毎日、昼食の材料を買いに外出し、毎日地域の一員としての交流を図っている。	買い物や理美容院の外出・施設周辺の清掃作業時に触れ合いをもっている。また、職員が年に3回、住民向けの「認知症サポートデスク」の研修会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に3回地域の方に向けた認知症公開講座を開催し、認知症に対する理解や支援を職員の演劇等を通じて分かりやすく地域の方に勉強して頂いている。また、認知症サポーター養成講座の講師も務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。誠実に事故やヒヤリハットの報告をしている。また、利用者の方の日々の生活を参加者の方にご紹介している。その後、参加者の方から、問題点や疑問点を挙げてもらって、話し合いを行っている。	運営推進会議は、2か月に一度開催され、近隣の病院のソーシャルワーカーや家族・民生委員・地域包括センター・市の職員などが参加している。特に家族の参加では、入所開始時にローテーション制での参加をお願いしている。行事やヒヤリハットの報告を行い、参加者より意見を出してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の担当の方に出席して頂いている。その他、事故が起こった場合の連絡など密に行っている。夏祭りなどの行事にも市役所の方が参加してくださっている。	市の職員が毎回、運営推進会議に出席し、現状把握している。また、事故が発生した場合は市の職員に報告し、利用者本位に検討している。市職員も夏祭りなどに参加し、事業所の現状を理解し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は日中はしない。利用者の方の希望があれば、夜間でも鍵を開けるようにして、自由に外に出て頂いている。	事業所は市内の中心街にあるが、施錠はせず開放的な施設づくりを目指し、外出支援を多く取り入れている。また、看護師が常駐しており、身体拘束の弊害を正しく理解しており、安易なセンサーマットも使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止の研修に参加している。また、日頃より職員同士が声掛けをし、介護が困難な利用者の時は交代するなどし、一人が負担を負わないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に成年後見制度の研修を受けている。また、日常生活自立支援についても、利用者が活用していることもあり、担当者との話し合いを繰り返している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にしっかりと説明をし、不明な点等を確認をするようにしている。また、看取りに関するアンケートを作成し、入居時にご家族と話し合いを持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、面会時等においてご家族の意見を頂くようにしている。運営推進会議には必ず、1組のご家族に参加して頂いている。また、年に1度、家族会を開催し、話し合いを持ち、意見をサービスに反映するようにしている。	日頃から利用者の暮らしぶりについて家族にリアルタイムでLINEを活用し画像を送っており、家族の安心感に繋げている。また、運営に対して気軽に意見が出せるように、定期的に家族会を開催し意見交換を行っている。更に、毎月の請求書の中で利用者の現状を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員主導の委員会制度を設け、全体会議において改善案等を提案し、全員で決定する機会を設けている。	職員主導の委員会制度を設け、サービス向上委員会などを立ち上げている。また、年長職員がリーダーシップをとり、制服の件などグループのLINEを通じて情報の共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もよく現場に来て、状況の把握につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を充実させている。施設外研修においても、可能な限り職員を積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	臼杵市の小規模施設のネットワークに参加している。合同で研修会を開催したり、意見交換会や先進地の視察等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活歴・現在の状況を踏まえ、寄り添う為に傾聴を心掛けている。情報を得て、他の職員との連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にこれまでの生活歴やこれからどのように過ごしてほしいか、気になっていること等を詳しく聞き、ケアにつなげていっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にはご自宅に訪問し、ご家族とご本人には必ず会うようにしている。その中でご本人の思いや、家族の思いを聞いている。また、入居前に施設に来ていただき、可能であれば食事をしたり、おやつを食べて頂き、職員も話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人と共に生活する者として家事や買い物と一緒にいき、して頂いたことに対して、感謝やねぎらいの言葉を惜しみなく述べる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は定期的にご家族と連絡をとり、共にご本人を支えるため、情報交換を行っている。また、利用者の担当職員が手書きにてご家族宛に手紙を書いている。(毎月)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方にそれまでの交流や生活状況を聞き、買い物や美容室等で今まで馴染みのある場所へ出かけている。今まで通っていたデイサービスや施設にも訪問している。	馴染みの美容院に通ったり、近隣の商店街へ買い物に出かけたり、また家族や知人を訪問する等、交流を続け、その際に過去の生活状況を聞き、意向の把握に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方、一人ひとりの個性を見極め、皆さんと共に過ごす時間を大切にしている。同時に一人の時間も大切に、落ち着いて、ゆっくり過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され、他の有料老人ホームに移られた方にもその施設に仲の良かった方と一緒に訪問している。そのご家族とも連絡を取り合い相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちや今までの生活リズムを大切に、朝食の時間は起きてこられた順に食べて頂いている。また、昼食や夕食も希望に合わせてその方だけ時間を変更している。	家族にアセスメント表への記入を依頼し、更に担当職員により記録され、利用者本人一人ひとりの思いや意向を職員間で共有し、本人の希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活リズムを大切にする為に、入居前に情報収集をしている。例えば、夕食後の入浴を希望される方にはそれに対応している。また、食事についてもパンを中心に食べられる方等対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定し、健康状態の把握に努めている。また、家事を一緒に行うことや、買い物と一緒に行くことで現在ある能力を知るように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月2回の全体会議で利用者の方に適したケアを話し合っている。それをご家族に伝え、協力して頂くこともある。それをケアプランに反映させている。	日々の記録にケアプランの短期目標やケアプランを記入し、確認を行っている。毎月2回の全体会議で、利用者の現状に即したものか話し合い、モニタリングし見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員がどんな小さなことも記録に残そうと意識している。その記録を元に、申し送り等で職員同士、情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夫婦での利用やペットと一緒に生活を実現している。今までの生活を維持できるように、柔軟な発想でケアや環境整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等において、市職員、地域包括支援センター、民生委員、区長等に参加いただき、理解と協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人が希望するかかりつけ医への通院を入所後も継続している。通院には職員が同行し、日常の様子を医師に伝えている。	利用当初からの、かかりつけ医(14か所)への受診を継続している。管理者は医師との話し合いの場を設け関係を築いている。また受診の際に職員より日常の状態なども医師に報告し、適切な医療が受けられるよう協力関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化については発見したその場で看護師に報告相談をして指示を受けるようにしている。決して自己判断しないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の様子や情報を医療機関に提供し、週に何度も職員が面会に行っている。また、医療機関や家族と状況などの話をし退院時の連携を良好に行っている。また、他の利用者とお見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より本人家族等の意向を確認し、その意向に沿うようにケア会議において職員全員で情報を共有して支援に取り組んでいる。	入所の際に本人や家族の意向を確認し、ターミナル期の事業所としての方針や様々な事柄は書面に記されており、家族・医師と相談し支援に取り組んでいる。現在までに4人の看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が消防署による応急手当か初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災士である職員を交えて施設長を中心として防災訓練や備蓄に努力している。	定期的に災害想定をした避難訓練を行い、また消防署よりAED・救急の指導を受け、実践力を身に付けている。更に防災士の資格を持つ職員もあり、備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本とし、利用者の方へお話しするように心がけているが、利用者の方が耳が遠かったり、聞き返されると、わかりやすく話がちのちのところがある。	敬語で話すことを基本として、利用者の意思表示や自己決定等を大切に、コミュニケーションの取り方に注意し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後に着る服やパジャマの選択を利用者の方にさせていただけるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どこかへ行きたい、部屋で休みたいなど本人の訴えがあった時はできる限りその希望に沿っている。しかし、利用者の方によって偏ってしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪や洗顔、髭剃りの声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事開始30分間は利用者の方と一緒に横に座って楽しい食事雰囲気づくりを行っている。	食事の献立は利用者のリクエストが出やすいように、広告を利用する等の工夫をし、献立を決めている。毎食写真を撮り記録し栄養士に評価してもらい、調理専門の職員によって手作りされ、準備・片付け・買い出しに行くなどの出番もあり、食事が楽しみなものになるよう工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量は各利用者、500ミリリットルを最低のラインとしている。栄養面での偏りが見られる方もいるので、提供の工夫を考えていきたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアの声かけを行っているが、応じて頂けない利用者の方もいる。その方にもそのように声掛けすれば応じて頂けるか、みんなで話し合っている。歯科衛生士の方にも時々来ていただき、指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存機能を生かし、トイレまでは歩いて行って頂く利用者の方が多い。ご自分で上げ下げしやすいようにと考え、リハビリパンツではなく、布パンツを使用している方も多くいる。	リハビリパンツから布パンツへ変更した方が半数以上いる。排泄チェック表を参考にし、トイレでの排泄へと促している。トイレでの排泄が、コストの軽減・排泄の自立、さらに生活リハビリに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日記入している。安易に緩下剤を使い、利用者の方に負担をかけることはしていない。排便を促す運動や腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望をお尋ねし、安全を十分確保した状態でできる限りご自分一人が入って頂く。また、その方の生活リズムに合わせて、夕食後にも入浴して頂けるように対応している。	本人の希望に沿って、週2~3回、中には毎日入浴する方もいる。リフト浴の準備もあるが、利用は今までない。入浴を楽しんでもらえるよう、風呂場には「湯布院温泉」と表示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライバシーを守り、静かな環境を作ることを中心している。起床時間はその方のペースに合わせている起きて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は利用者の方の手のひらに薬を置き、極力ご自分で飲んで頂く。緩下剤については飲みすぎないようにし、排便があった日には看護師が調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらうということが喜びになるということをスローガンとして掲げている。日常的な洗濯物干しや畳むこと、調理や掃除・洗車など役割分担し、行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昼食の買い物には毎日、近所のスーパーに行って職員と一緒に買い物し、会計もして頂いている。そのことにより、地区の方との交流が芽生えている。また、地区や市のイベント等に参加し、知られるようになった。ご自宅への一時帰宅ができるように家族に協力して頂いている。	毎日の食材の買い出しや地区・地域のイベントに参加したり、外食や花見など様々な場所へ出かけている。写真付きの外出報告書があり、外出することで利用者・職員ともにリフレッシュに繋がっている。個別での外出(自宅・相撲観戦など)では、家族や地域の方などの協力も頂き、外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。毎日買い物に出かけ、実際に売り場で買い物をして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方に届いた手紙や荷物はご本人に確認してもらっている。電話をかけてほしいと希望がある時には、職員がかけ、ご本人に代わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、花や絵、写真などを飾っている。また、食事づくりを利用者の方と一緒にテーブルで行うことにより、匂いなど感じてもらえるようにしている。	季節感のある飾りや花、食事作りの音やにおい、個々の利用者が思い思いに過ごせるソファ等、穏やかで明るい共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでもらえるように用意している。気の合う人同士を同じテーブルに座ってもらう等の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持ってきて頂いている。家族が持ってこられたものや家族との写真を居室に飾っている。	転倒や外傷予防のためクッション材を利用した居室に、写真を飾ったり、自宅で使用していた馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での転倒を予防するためにクッション性のあるマットを敷くなどして、なるべく利用者のプライベートを安全に居心地良く過ごしてもらうための工夫をしている。		